

# キックオフ・シンポジウム開く

9月2日、市と県では大江・崎津教会などの世界遺産登録に向けて、「天草の宝を世界遺産へ〜キックオフ・シンポジウム〜」を市内のホテルで開催しました。市民の皆さんなど約450人が参加したこのシンポジウムでは、政策研究大学院大学の篠原修教授が「世界遺産と文化的景観保護」と題して基調講演。パネルディスカッションでは「天草における世界遺産登録」をテーマに、安田市長などパネリスト4人が、篠原教授をコーディネーターに、それぞれの専門・立場から見る世界遺産、そして天草への思いなどを語り合いました。今回は、このシンポジウムの概要について紹介します。

・長崎の教会群とキリスト教関連遺産（長崎県）  
・小笠原諸島（東京都）  
※平泉の文化遺産は、来年の世界遺産委員会で世界遺産リストへの登録が審議される予定です。

## 大江・崎津教会などの世界遺産登録への可能性

今年1月、暫定リストに「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が登録されました。今後、世界遺産リストに登録する物件として、保全管理の徹底など推薦条件を整えることになりませんが、この遺産が暫定リストに登録する物件として選定される際に、文化庁の文化審議会から「隣接県の事例を資産構成に含める検討が必要」という指摘がありました。世界遺産への本登録までに構成資産を追加することは可能なことから、地理的・歴史的につながりの深い本市の大江教会や崎津教会などのキリスト教関連遺産についても、資産構成に含まれる可能性が出てきたこととなります。市では、大江教会や崎津教会などの世界遺産への登録に向けて、

大江・崎津地区での住民説明会をはじめ、7月1日には、大学教授らでつくる天草市文化的景観学術検討会（下記参照）を設置するなど、準備を進めています。

## 世界遺産登録は遺産保護のスタート

世界遺産に登録されると観光資源としての名声が高まり、訪れる人が増え、経済効果も高まることから、近年、世界遺産登録への関心が高まっています。しかし、本来の目的は「世界中の優れた普遍的価値を持つ文化遺産や自然遺産を人類共通の宝物として守り、次世代に伝えていくこと」「人類がお互いの異文化をより深く知ることによって世界平和に貢献すること」と条約にうたわれています。世界遺産は登録されたらそれで終わりというのではなく、その遺産を保護していくためのスタートである、という共通認識が必要のようです。

※詳しいことは、本庁（別館）・文化課世界遺産担当 ☎1111（内線2535）へお尋ねください。

## 基調講演

# 世界遺産と文化的景観保護



講師 政策研究大学院大学教授 篠原 修 氏

世界遺産は今やブランドになっていますが、もともとはそのまま放っておくとなくなってしまうかもしれない、あるいは産業・経済の発展に伴って、おかしくなってしまいかもしれない、きちんと保護しないと壊れてしまうものを守りましょう、ということから始まったものです。世界遺産になると、見に来る人が増えて、お金も落ちて、地域も潤うということも考える人もいるかもしれませんが、それは当然のことですので否定するわけではありません。約2年前に、北海道の知床が世

界遺産になりました。聞くと、世界遺産になった年は非常に採算がとれませんが、翌年からはそうでもない。その話を聞いて、なんだか大河ドラマのようだと思いました。大河ドラマのロケ地は、観光客が増えるけれども1年ぐらいいか持たない。しかし、ずっと増えているところもありません。例えば、秋田県と青森県にまたがる白神山地。ブナの天然林が世界最大級の規模で分布しているとありますが、ここはずっと一定のお客さんが来ています。私も行ったことがあります。その林の中を歩くと、すがすがしくてとても気持ちがいいんです。それが要因の一つだと思っています。その反対に、昔から有名で世界遺産になったところは、お客さんが増えているわけではあり

ません。ただし、訪れる人はずいぶん変わるようです。ヨーロッパのお客さんが増え、何泊もしてゆっくり見て回る。ただし、そんなに地元にお金が落ちるわけではない。しかし、日本を知ってもらうなど文化交流という意味では非常にいいことです。こうしたさまざまな例がありますが、天草はどうでしょう。全国には天草のことをよく知らない人もいます。ただそれが、大河ドラマのように落ち込んでしまいはしないか。キリスト教や他国のことなど、知的なことに関心を持つ人が来て、地元の人との交流があつて「天草は、こういうところですよ」と、世界中に広まっていくといいと思いますが、そのためには何をしたらいいかということですね。これは私の考えですが、世界遺産への登録は最終ゴールではなく、世界遺産になってから地域がどのくらい良くなるか、元気になるかということが重要だと思っています。ですから、観光客が増える、お金が落ちるといったことは、あまり考えない方がいいと思います。

## 天草市文化的景観学術検討会を設置！

市では、大江教会や崎津教会などの世界遺産登録に向けて7月1日、「天草市文化的景観学術検討会」を設置しました（委員は右下表参照）。これは、世界遺産の登録には国の法律などによる保護が必要であり、「大江教会と集落景観」「崎津教会と集落景観」などの文化財保護法による“重要文化的景観”の選定を受けるために設置したものです。



▲7月30日に開かれた第1回天草市文化的景観学術検討会

7月30日に市役所本庁で開いた第1回の検討会では、岡部教育長が委員6人に委嘱状を交付した後、座長に政策研究大学院大学教授の篠原修氏を選出。検討事項の確認や調査内容、今後のスケジュールなどについて話し合いを行いました。また、9月3日には第2回の検討会が市庁舎別館で開かれ、市内にある文化的景観の保存調査の範囲や方法などについて協議されました。なお、同検討会では報告書をまとめ市に提出。市では、これを受け、文化庁に重要文化的景観の申し出をすることにしています。

### ◆天草市文化的景観学術検討会委員（敬称略）

役職	氏名	職名
座長	篠原 修	政策研究大学院大学教授
委員	斎藤 英俊	筑波大学大学院教授
	五野井 隆史	聖トマス大学大学院教授
	内野 明德	熊本大学大学院教授
	安田 宗生	熊本大学教授
	袁茂 壽太郎	熊本県立大学理事長